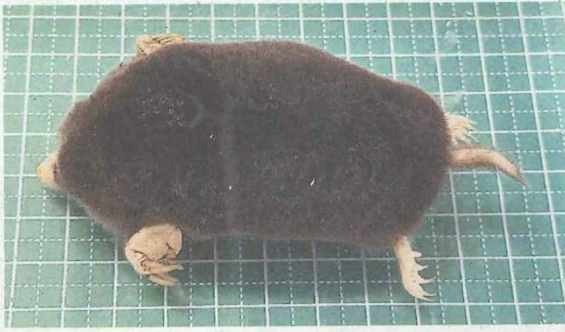




ミズラモグラ 白神で初確認

弘大日本固有種 県西側に

弘前大学農学生命科学部の研究グループが、世界自然遺産・白神山地で、日本固有種の小型のモグラ「ミズラモグラ」を初めて確認した。これまで県内では主に八甲田山系と岩木山南側斜面で生息が報告されており、今回の発見地点は県内で最も西に位置する。研究グループは、白神山地とその周辺の広い地域に生息している可能性を示す記録としている。

（菊谷賢）

同大農学生命科学部付属白神自然環境研究センターの中村剛之教授が2019年6月1日、西目屋村暗門の「世界遺産の径」ブナ林散策道でモグラの死体を発見した。

死体に目立った外傷はなく、腐敗臭もほとんどなかった。研究室に持ち帰って保存し、体の大きさや歯などを詳しく調査。下顎の歯の特徴などからミズラモグラと確認した。標本は同センターに収蔵されている。

ミズラモグラは本州の森林に生息し、主に山地や高山帯に分布する。生息地は

白神山地で初めて確認されたミズラモグラ（弘前大提供）

局所的に分断されているとされ、環境省のレッドリストでは準絶滅危惧（NT）に指定されている。県内で

はこれまで20匹余りの捕獲され、拾得記録があり、その多くが八甲田山系に集中。ほかには岩木山南側斜面で確

認されていた。

県内では標高60～1050㍔と幅広い標高帯で確認されていることから、研究グループは「これまで記録がない秋田県側を含め、白神山地全域に分布している可能性がある」としている。

研究成果は、同大のムラノ千恵助教、中村教授、山岸洋貴准教授がまとめ、7月末公開の学術誌「哺乳類科学」に掲載された。